

18/6/11 特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 天守閣部会（第11回）
名古屋市民オンブズマン作成メモ

13:00

蜂谷主幹：司会を行う

西野所長：第11回天守閣部会に参加頂いてありがとう

毎月実施している 頻度が多くて申し訳ない

本日は石垣部会報告+屋根関係 議題としたい。

以前6月には構造計画・防災計画等出す予定だったが、少し時間を要している

7月に議題にさせて頂きたい

蜂谷主幹：出席者：瀬口・小野・川地・西形・麓・古阪・三浦・片岡

愛知県は欠席

教育委員会、住宅都市局営繕部、竹中工務店、安井建築士設計、名古屋城総合事務所

写真・ビデオ撮影はこれまでと致します。速やかに移動をお願いします。

資料の確認

議事に入る前に事務局より報告

名古屋城：6月1日石垣部会報告

学芸員の体制→より体制を充実させろ、学芸員同士の交流を

発掘まとめ→土層断面図が重要 全て今後載せて欲しい

大天守北西隅 慶長期の隅石を利用した 安定性に注意を

内堀外側石垣 盛り土が確認されていないので安定性に注意

地盤沈下要因を確認

追加発掘調査予定図 3/6 石垣部会 追加の調査した方がよい

今年度発掘まとめ+追加調査実施箇所案示した

具体的な場所は今後も石垣部会に意見を求める

小天守周り石垣・搦手馬出午前中意見を頂けなかった

午後意見を頂いた

蜂谷主幹：ご質問は？

よろしいでしょうか

13:11

蜂谷主幹：議事に移る
座長に一任

瀬口：資料 2 説明を

名古屋城：マイルストーンを示した 「技術的な決定事項を載せて欲しい」と前回頂いたが、
今回示しできずに申し訳ない
現状許可変更に伴い示したい

瀬口：なにか質問は

麓：現状許可申請の進捗状況は？

名古屋城：文化庁に基本計画書案を出させて頂いた
昨年 12 月 3 月文書を示した
復元検討委員会にご報告頂いたと認識している
私どもとしては、7 月にもう一度資料を示すことになっている
7 月に出せるように努力している

瀬口：よろしいか

麓：12 月 3 月に出して、7 月にも出す。
文化庁にだす書類は何が足りないのか、文化庁からはどう言われているか

名古屋城：文化庁の意見 石垣調査について
元々 7 月示す計画だがまだできていない。早急にまとめたい
また、「現在天守閣の評価と、解体し木造復元することについて意義を明確に
解体を上回る意義を示して」と言われた

麓：この委員会を毎月重ねてきて、建物についていろいろ検討してきたが、まだ文化庁に提示していないのか

名古屋城：その部分は報告していない

麓：言っていることがよく分からなかった

名古屋城：資料としては文化庁に出したが、復元検討委員会で報告したかどうかは認識していない

麓：検討している状況は提出したという理由か

名古屋城：お示ししている

麓：ペラペラ見せるのか、置いてくるのかで違う

名古屋城：資料を文化庁調査官にお渡しした

麓：わかった

瀬口：現在出している現状許可変更申請の内容は何か

名古屋城：現状変更許可申請手続はまだ進んでいない
基本計画書、特に基本構想を出す予定

瀬口：何の基本計画書、基本構想なのか

名古屋城：天守閣整備

瀬口：基本計画書、基本構想は文化庁は受け取ってないと新聞報道があった

名古屋城：文化庁に示して、ご報告は頂いているという認識がある

瀬口：認識が違っているのか

西野所長：復元検討委員会に情報提供として示されたと聞いている

復元検討委員会からは、現天守を超える価値を示さないと、ということと、石垣調査について示さないといけないと意見として出されたと伺っている。

基本計画案を文化庁に持って行った

復元検討委員会がどう受け止めたかは十分認識していない

もともと今年度石垣を含めた全体の保全計画は 7 月の復元検討委員会で審議頂きたいと思っている

その部分は全くお示しできていない
今後とりまとめて次回天守閣部会で示したい

瀬口：よろしいでしょうか
どうもわからない
現天守の価値はどこで検討しているのか
書類を出さないといけないわけですよね
部会にはかかっていないのだから、全体整備検討会議で示すのか？
保存活用計画ではそれなりに書いたと思うが、それ以外に付け加えて作業をしているの
ですね

西野所長：現時点ではまだ事務局で検討している
具体的に提出する段階で天守閣部会にご相談したい

瀬口：そうすると7月に出せない

西野所長：7月に間に合わせたい

瀬口：今はもう6月 もう一回やるのか

西野所長：7月の中に入れさせていただきたい

瀬口：出来そうだと思うことですね

西野所長：努力する

瀬口：努力することと見通しがあることは違うと思う
見通しがあるということですね

西野所長：我々としてはそういう目標で進めている
見通しは天守閣部会にお出ししていただけるように
文化庁のお答えについてはなんとも言えない

瀬口：石垣の保全についても先ほどの報告プラスなにかやって
石垣に間に合わせるのか

西野所長：はいそうです

瀬口：なければ7月を過ぎればおそらく今日出して頂いていない
スケジュール工程案が7月うまくいかないか確認の上修正したものか、
今までのものが出てくる
今までのものも修正されていますが、その認識でよろしいですか。

西野所長：はい、それで結構です。

瀬口：ほかになければ次に行きたい
次に屋根

13:22

竹中工務店：大屋根検討

瀬口：ありがとう
意見を

麓：11-8 規矩図 隅木を書いていない

竹中工務店：仮に規矩図と呼んだ

麓：みやげだけではだめ 最初から隅木を書いて

竹中工務店：ありがとうございます

川地：そり 西北隅櫓規矩図 東南隅櫓、西南隅櫓
そりの高さが小さい 東南・西南はかなり大天守と同じ感覚
西北隅櫓はあまり参考にならない
東南・西南隅櫓が大いに参考になるのでは
報告書 規矩図らしきもの
平面的にもそりがある
継ぎ木 3Dモデル化
模型を作るのではなく、3Dでモデル化
やだるみ曲線 どういう曲線か
放物線、折れ線

竹中工務店：糸だるみ曲線に近似していると見受けられた

麓：2つのうちの1つが答えられていない

西北隅櫓の規矩図 こういうもの

昭和実測図と写真しかない 規矩図 それで決めればよい

瀬口：あくまで参考に

中がわかっていない 外形からわかる範囲を出して

川地：麓先生がおっしゃったことでよいと思う

天守を調べると、姫路城規矩図 残っている

隅柱からそり元が始まっている

そりの高さ かやおいの1.5倍

以外とそりが小さい

類例として2つの隅櫓が近いのではないか

底面的にそりのないものも

同時期に作られた2つの隅櫓

三浦：1ページ図面 文化庁に出す図面か？

西北隅櫓は小さい 東南は大きい

文化庁復元検討委員会からは誤解される

載せるのなら東南隅櫓

西北は削除した方がよい

004 ページ 勾配読み上げて欲しい

竹中工務店：初層5寸5部

二重目 図示していない

三浦：標準 何寸表記していなければ規矩図として失格

一覧表にしていけないのは言語道断

屋根面か垂木か

竹中工務店：垂木 5層

今回は平瓦表面 屋根面勾配

三浦：等しいのか等しくないのか
重要なのは垂木勾配
次回資料に化粧垂木勾配をかいて

瀬口：他には
5 ページ 大屋根軒ぞり 屋根 曲線でそり上がる
立面図 赤と青
屋根面の風格図
どこと言えるのか

竹中：平面上からそり上がりが始まる

瀬口：柱から
姫路城から隅櫓からはじめる
調べて頂きたい 参考になるかわからない

麓：説明が悪い隅柱か1間入ったところか、間か
真ん中から赤い線 そり元がどこか押さえて

三浦：009 ページ 実測見上げ図
赤垂木の位置 全くずれている
0.5し分 あってない
調整ができていない 作り方がおかしいのではないか

竹中工務店：なぜかということはあるが、
垂木割りを落としている
昭和実測図 波の位置がどういう関係がある
検証していきたい

三浦：これからですね

麓：上の立面図の垂木 見上げ図に落とすとこれだけずれる

三浦：そうですか

瀬口：破風も検討するのか

竹中工務店：大天守の問題点 破風について検討

瀬口：根本的なもの

文化庁 屋根 重ではなく層で呼んでいる
用語を統一しては

竹中工務店：はい 統一していきたい

昭和実測図は図面表記が層となっていた

三浦：実際の図面は重をつかって

瀬口：雨水流れ解析

竹中工務店：準備をしている

解析数値は反映できていない

宝暦修理 2重-4重 銅瓦になった+縦樋が追加された

現在の気象状況で十分か？検討されていない

基準雨量 大雨 1時間当たり雨量 赤一つ下 1時間当たり降水量

1位 2000年9月11日 1時間97ミリ 東海豪雨

現代建築 フラット陸屋根 1時間降水量

複雑 谷樋 1時間当たりではなく瞬間最大降水量 10分間で

2013年7月25日 10分間で30ミリ 1時間180ミリ

現代建築 1時間180ミリと一致している

複雑な屋根でシミュレーション 上の階に上がることに屋根が小さくなる
谷樋

最終的に報告したい

瀬口：雨水流れ解析

14:02

古阪：それでよいと思うが、気象変動 東南アジア ベトナムで建設会社

とんでもない水が流れてやり直し 下水

どの程度の被害

あらたな知見 しとしとびっちゃんの時代ではない

2013年より激しくなる

名古屋城もあり得る オーバーフローしたときどう防げるのか

竹中工務店：安全率 どの程度まで見込むか

昭和実測図 どの程度まで耐えられるか

風圧実験もしている

瀬口：よろしいでしょうか

想定外を考えて対策を

樋の設計も出てくるのですね 実施設計時点

竹中工務店：問題なければ昭和実測図そのまま

問題があれば、ご審議はかって頂きたい

瀬口：議事はそれは3つ終了

全体を通してなにか

麓：前回千葉県の研究所で実験した 100分の1まで変形させる

あのあと今日までどうなのか

簡単に説明頂ければ

竹中工務店：先日公開実験 100分の1

翌日から変形角 50分の1、30分の1まで進めた

土壁の剛性高かった 足抜け 全体的に傾く

壁 土壁自体が崩壊は至っていない

装置再度セッティングして剪断変形が起こるようにしたい

麓：土壁が壊れるまで変形するのか

竹中工務店：どのように壊れるか調べたい

小野：壁にどれだけ

竹中には別途

柱それなりに大きい 柱の引き どのように考えるか

変な言い方をすると、止めることがよいか 考える必要がある

損傷をどうするか デバイスを入れることによって壁の損傷

私は翌日も見た

必ずしも壁が壊れるのがよいのか今後検討して欲しい

瀬口：実験 垂直加重はかけているのか

竹中工務店：その通り

瀬口：それでも吹き抜けがあったのか

ほかにあるか なければ終わり

蜂谷主幹：以上で終わり

14：10